

電子出版環境整備事業
(新ICT利活用サービス創出支援事業)
事業評価会

「次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備」

平成23年6月28日

代表機関: 社団法人日本書籍出版協会
共同提案組織: 一般社団法人日本出版インフラセンター
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
株式会社数理計画

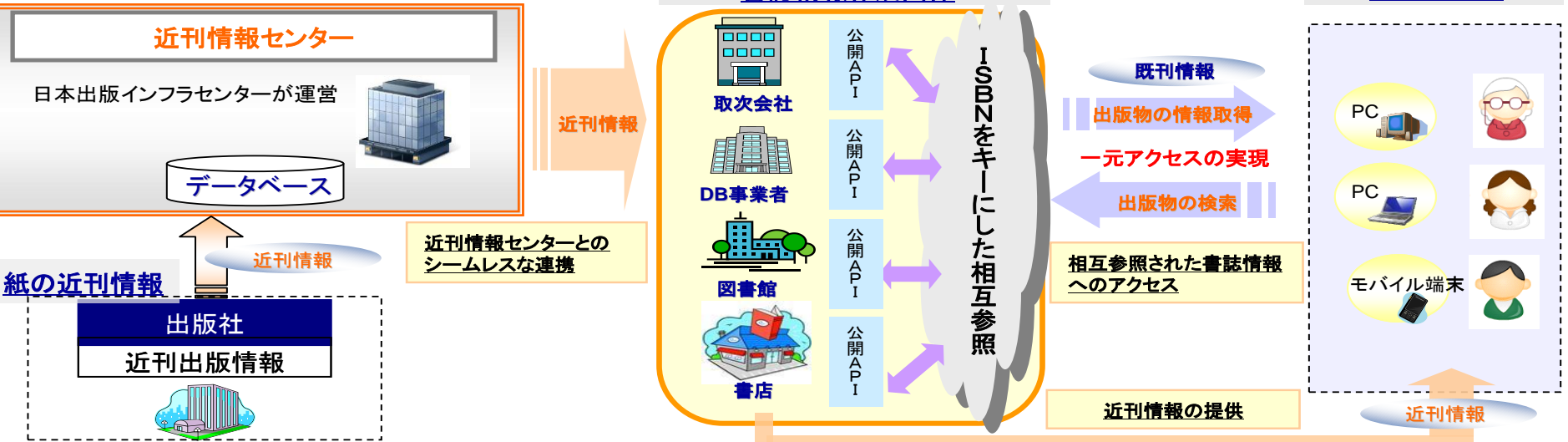
1 「次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備」

(代表組織: 社団法人日本書籍出版協会)

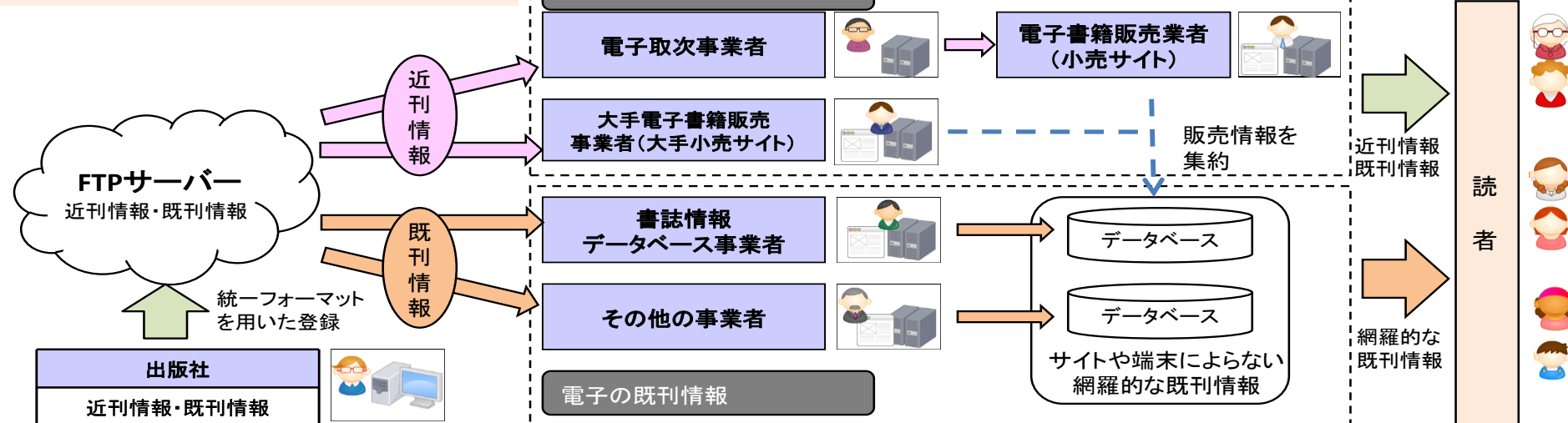
(共同提案者: 一般社団法人日本出版インフラセンター/エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社/株式会社数理計画)

本事業では、利用者が求める出版物を簡単に探し出して利用することのできる検索基盤の実現のため、各種調査・実証を行い、「紙の既刊・紙の近刊・電子の既刊・電子の近刊の4つのガイドラインの策定」及びこれから出る本である近刊出版物の情報を一元的に管理・提供する「近刊情報センター」を設立した。

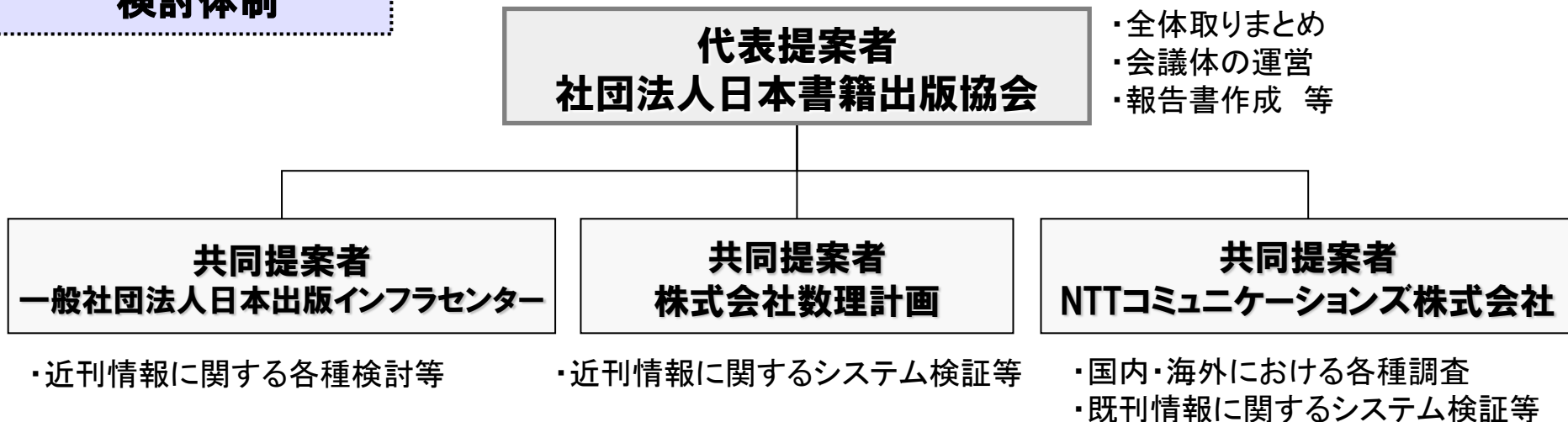
紙の書誌情報の流れ



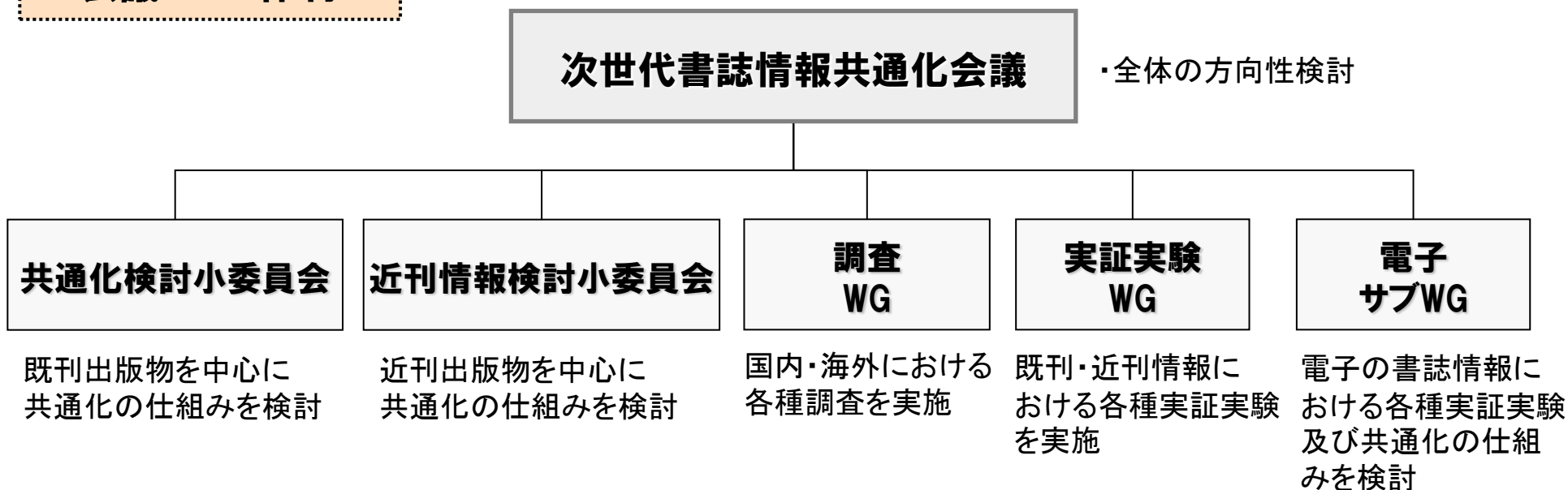
電子の書誌情報の流れ



検討体制



会議・WG体制



2 実施体制（委員会メンバー）

本事業では、次世代書誌情報共通化会議、共通化小委員会及び近刊情報検討小委員会を設置し、我が国の書誌情報を取り扱う様々な事業者がはじめて一堂に会し、検討を行った。この事は、これまでにはない画期的な成果であるといえる。

次世代書誌情報共通化会議 委員一覧		
議長	社団法人日本書籍出版協会 知的財産権委員会副委員長	平井 彰司
議長代理	一般社団法人日本出版インフラセンター 委員長補佐	永井 祥一
委員 (50音順)	日本書店商業組合連合会 専務理事	大川 哲夫
	株式会社hon.jp 代表取締役社長	落合 早苗
	日本出版販売株式会社 書籍部長	金田 徹
	杏林大学 客員教授	木下 修
	株式会社ビットウェイ 代表取締役社長	小林 泰
	一般社団法人電子出版制作・流通協議会 監事	佐々木 隆一
	株式会社トーハン 取締役	谷川 直人
	社団法人日本図書館協会 理事兼事務局次長	常世田 良
	日本電子書籍出版社協会 専務理事 兼 事務局長	細島 三喜
	株式会社モバイルブック・ジェイピー 執行役員部長	本城 剛史
	株式会社図書館流通センター データ部長	松木 暢子
	社団法人日本雑誌協会 デジタルコンテンツ推進委員会 幹事	丸山 信人
	日外アソシエーツ株式会社 常務取締役	村田 征禧
	群馬県立女子大学 メディア論専任講師	山崎 隆広
オブザーバ	国立国会図書館 収集書誌部司書監 (書誌担当)	佐藤 尚子
事務局	社団法人日本書籍出版協会 事務局長 兼 調査部長	樋口 清一

調査概要

国内調査

国内の業界団体、図書館、取次会社、書誌情報データベース事業者、電子取次会社等の計16社/団体を対象に、書誌情報データベースの概況等の調査を実施。

【調査対象先】日本書籍出版協会、日本書店商業組合連合会、国立国会図書館、調布市立図書館、鎌倉市立図書館、国際基督教大学図書館、千葉大学附属図書館、国立情報学研究所、取次会社A社、取次会社B社、取次会社C社、図書館流通センター、日外アソシエーツ、電子取次会社A社、電子取次会社B社、hon.jp

海外調査

ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、韓国において、各国の出版協会や図書館等の計14社/団体を対象に、出版物の統一された情報基盤の有無や、書誌情報データベースの概況等の調査を実施。

【調査対象先】
 ドイツ：ドイツ書籍業組合、ドイツ国立図書館
 フランス：フランス出版社協会、フランス国立図書館、Dilicom社
 イギリス：英国出版社協会、大英図書館、International ISBN Agency、EDItEUR
 アメリカ：米国出版社協会、米国議会図書館
 韓国：韓国出版人会議、韓国出版文化協会、韓国国立中央図書館

インターネット調査

読者の書誌情報の利用傾向及び探索方法等を把握するために、10代～60代までの男女計2,000名を対象にインターネットによる調査を実施。

調査結果

紙の既刊

標準的な書誌情報データベースは存在しておらず、多数のデータベースが存在している。

また各事業者は書誌情報の収集及びデータベースの維持に多大な労力とコストを強いられていることが判明。

【商取引用】

・業界団体、取次会社、データベース事業者等が保有する書誌情報データベースが多数存在し、統一した情報基盤はない

【図書館用】

・JAPAN/MARC以外にも、多数のMARCが存在

・大学図書館では、国立情報学研究所を中心に共用の書誌情報データベースを整備

紙の近刊

・一部の出版社に限定された書誌情報のみ存在する

・出版社が個別に対応することにより、取次会社、データベース事業者等がそれぞれ内部用に保有

・そのため、標準的な書誌情報データベースは存在しない

電子の既刊/近刊

【商用】

・電子取次、データベース事業者等がそれぞれ書誌情報を保有し、標準的な書誌情報データベースは存在しない

【図書館用】

・ISBNのついた電子書籍やオンラインジャーナルに限定された書誌情報のみに限定され、バラバラに存在

実験概要

紙の既刊

既存書誌情報データベースの利点を活かしながら、それぞれが必要な情報を相互参照するための課題の抽出及び論点整理を目的に、各団体から提供を受けた書誌情報(フォーマット・サンプルデータ)を元に、「複数団体の書誌情報比較による共通点/相違点の把握 及び 相互参照のハードルの明確化」を実証システムを用い検証した。

紙の近刊

読者がこれから発行される出版物に関する情報(「近刊情報」)を簡単に探し出すことのできる検索基盤の実現を目的とし、「近刊情報センター」を中核とする実証システムを構築し、「送り手」(出版社)と「受け手」(書店、取次会社、業界団体等)の間に、「近刊情報」の集配信を行うことのできる仕組みを検証した。

電子の
既刊/近刊

出版社や書誌情報データベース事業者、その他の事業者等が共通に利用できる書誌情報フォーマットや書誌情報を一元的に送受信できるシステムを検討し、その実行性について検証を行うとともに、デバイスや通信キャリア等の環境に依存しない網羅性の高い情報を読者(国民)が確実かつ迅速に取得することのできる仕組みを検証した。

実証結果

紙の既刊

- ・書誌情報フォーマット項目、保持データ内容は各団体の書誌情報利用目的に応じて異なることが判明。
- ・異なる団体のデータベース間で全書誌情報の確実な書誌同定は難しいが、ISBNをキーにした書誌同定が可能であることを確認。

本実証実験を通じて、国内初となる「**書誌情報データベース白書**」ともいえる成果となった。

紙の近刊

- ・「近刊情報センター」を構築し、「送り手」(出版社)と「受け手」(書店、取次会社、業界団体等)との間で、「紙の近刊情報」の電子データ交換を実証することができた。
- ・「紙の近刊情報」についての入力項目を策定し、国際標準であるONIX仕様による標準化を進めることができた。

電子の
既刊/近刊

- ・FTPサーバーから取得する書誌情報と、電子書籍販売事業者から送信される販売情報を収集し、それぞれをマージした結果、電子書籍の網羅的なデータベースが構築できることを確認した。
- ・電子書籍の網羅的なデータベースを活用することにより、読者(国民)に対して、デバイスや通信キャリア等の環境に依存しない網羅性の高い情報を確実かつ迅速に提供できることを確認した。

ガイドライン

電子書籍の効率的な集配信及び統一的な運用を可能とする機能の実現を目指すことを目的に、電子書籍に関わる業界団体、書誌情報の「送り手」である出版社、および「受け手」である電子取次会社、大手電子書籍販売事業者（大手小売サイト）等に向けて、書誌情報フォーマットや書誌情報の収受が一元的に利用できる仕組みの検討方針等をまとめた。

【ガイドライン内容抜粋】

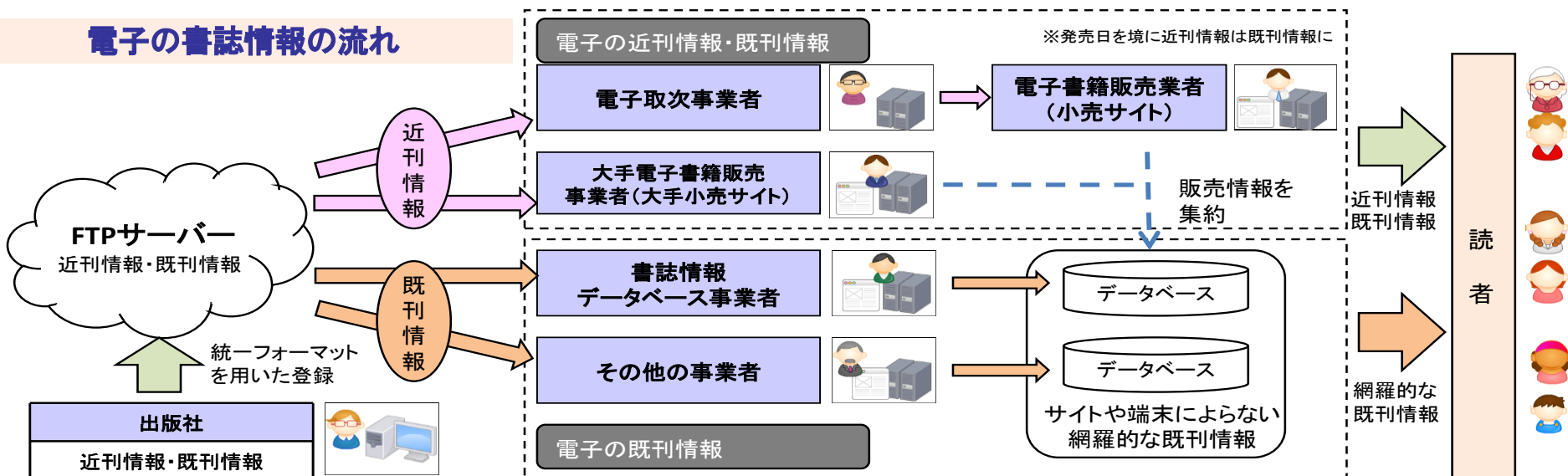
1. 統一的な電子書籍用書誌情報フォーマット（たたき台）を策定。※近刊用：91項目 既刊用34項目
2. 電子書籍の書誌情報の収受を集中的に利用できる仕組みの構築に向け、ベースとなる仕組みを策定
3. 統一コードとして、別プロジェクトで検討された「電子出版コンテンツ流通管理コード（仮）」を全面的に採用する。

【ガイドラインの効果】

- ・読者は、デバイス種別毎に閲覧可能な電子書籍の網羅性の高い情報を、确实且つ迅速に取得できるようになる。
- ・電子書籍に関するインフラが整うことにより、電子書籍ビジネスへの新規参入が容易となる。
- ・情報の「送り手」である出版社は、電子書籍の書誌情報を統一フォーマットで提供できるようになり、「受け手」ごとの個別対応が不要となり、労力、コストともに低減できる。
- ・より迅速で網羅性の高い電子書籍書誌情報のデータベースを構築することができ、読者（国民）やその他の利用者に対する多様で利便性の高いサービスを提供することができる

電子の既刊/近刊

電子の書誌情報の流れ



ガイドライン

各種調査・実証結果を加味し、現在多数存在する既刊書誌情報において、既刊書誌データベースのそれぞれの利点を活かしつつ、書誌情報データベース事業者が読者の利便性に配慮した書誌情報の相互参照を行なうためのルール案を策定した。

【ガイドライン内容抜粋】

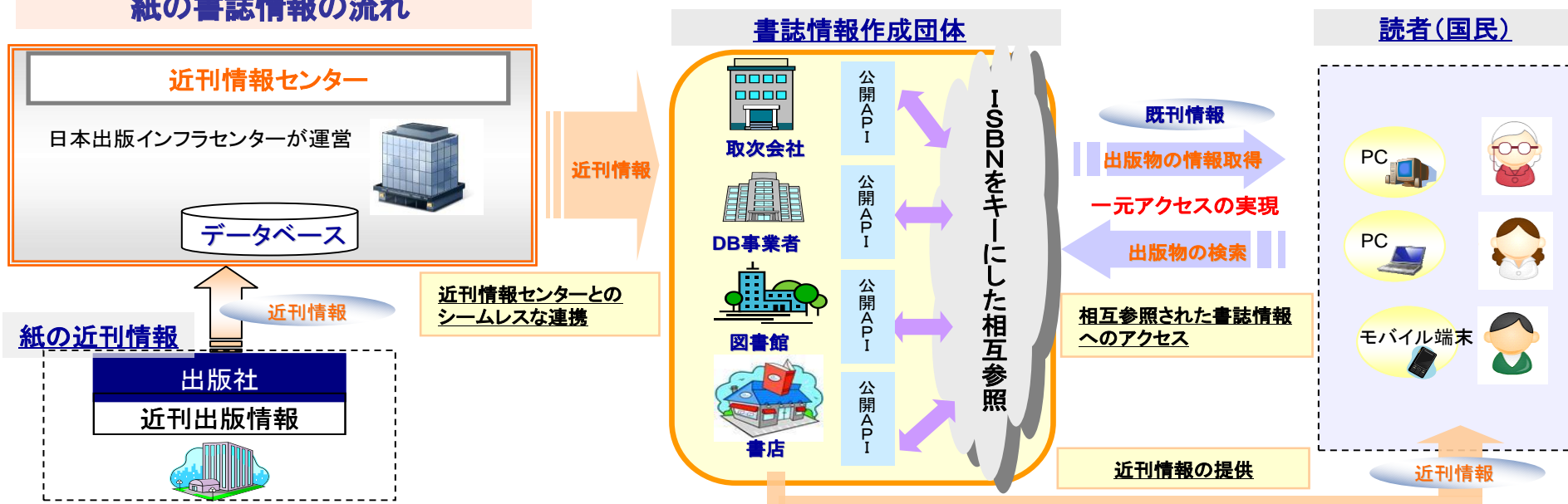
1. 書誌同定の確実性を確保するために、相互参照にはISBNをキーに用いる。
2. 各団体は、公開可能な範囲でデータベースにAPIを実装し、相互参照を実現する。
3. 近刊情報センターとのシームレスな連携を行い、紙の既刊書誌情報における必要最低限の基本項目を作成することで、労力とコストを削減する。

紙の既刊

【ガイドラインの効果】

- ・相互参照を実現することで、読者はいくつものデータベースにアクセスすることなく、自らが必要とする情報を容易に取得することができるようになる。
- ・各団体は、異なるデータベースとの相互参照を行えるようになることで、それぞれの特性に応じたより付加価値の高いデータベースを構築することが可能となる。
- ・各団体は、近刊情報センターから書誌情報の基本項目をシームレスに入手できるようになることで、データベース運用の労力とコストを削減することができる。また削減された労力とコストを専門性の高いデータベースの構築に費やすことで、読者はより利便性の高いサービスを楽しむことができるようになる。

紙の書誌情報の流れ



4 開発・実証成果（紙の近刊ガイドライン）

ガイドライン

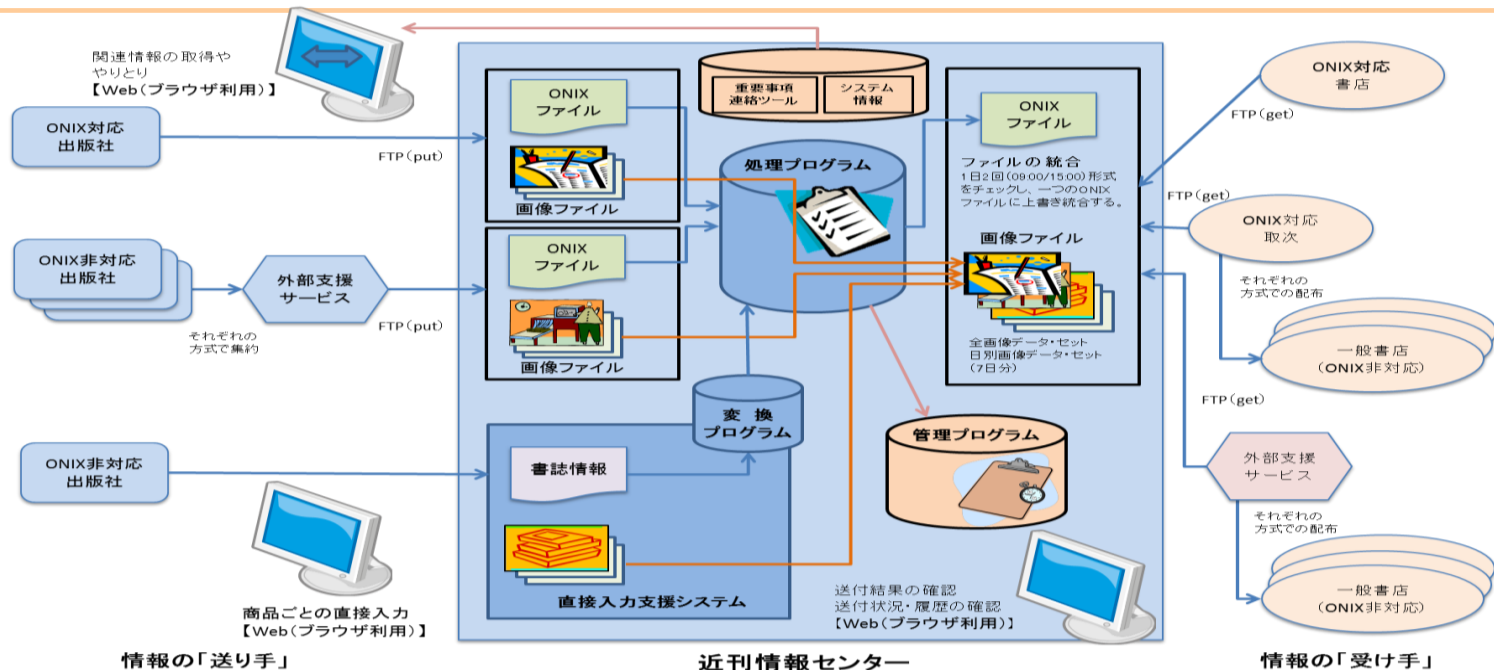
実証システムによる運用を通じ、「近刊情報センター」に参加登録した「近刊情報」の「送り手」(出版社)と「受け手」(書店、取次会社、業界団体等)各社から、実証システムに対するさまざまな質問や意見、要望を頂いた。それらを加味し、「紙の近刊情報」のデータ交換の主軸となる「近刊情報センター」の機能や運用方法と、「送り手」や「受け手」の対応方法を策定した。

【ガイドライン内容抜粋】

1. 「近刊情報センター」でやり取りされる「近刊書誌情報」の入力項目(全50項目、必須19項目)を策定。
2. EDItEUR(国際出版EDI標準化機構)が策定した国際標準である「ONIX for Books 2.1」フォーマットに対応させ、11項目の「近刊情報データ仕様」を策定。
3. 「近刊情報センター」の構築と、必要となる機能やその運用ルールを策定。
4. 「送り手」、「受け手」双方に対する近刊情報センターへの申請・登録、データ送信・受信の準備などの対応方法を策定。

【ガイドラインの効果】

- ・これまで存在しなかった「近刊情報」の検索基盤を実現し、読者が求める「これから出る本の情報」を提供することができるようになる。また読者は、刊行情報を早期に取得することで購入予約を行い、より確実に出版物を入手できるようになる。
- ・近刊情報の「送り手」は、近刊情報センターにのみ情報を送ればよいので、労力とコストが削減される。
- ・「受け手」にとっては、ONIX仕様の利用などでデータ仕様が標準化され、「送り手」別に対応する必要がなくなる。
- ・「紙の近刊情報」の「データ入力項目」と「ONIXデータ仕様」、そしてそのデータ構造の詳細や記述ルールを策定・公開することで、電子データ交換の環境を比較的容易に構築することができるようになり、新規参加が容易となる。



紙の近刊

近刊情報センターの実運用化

本プロジェクトにおいて、読者が「紙の近刊情報」を簡単に探し出すことのできる検索基盤の実現に向け、「紙の近刊情報」の「送り手」である出版社と、その「受け手」である書店、取次会社、業界団体等が、「紙の近刊情報」の効率的な集配信を行うことができ、その統一的な運用を可能にするセンター機能を実現するための検討を行ってきた。その成果を受け、本プロジェクト終了後の2011年4月より共同提案者である一般社団法人日本出版インフラセンターによって、「近刊情報センター」を本格運用していくこととなった。

■近刊情報センター登録社数（2011年5月24日時点）

- ・近刊情報の「送り手」： 154出版社・7団体
- ・近刊情報の「受け手」： 51書店・6取次・8団体

■近刊情報センターに関する「情報公開サイト」(<http://www.kinkan.info/>)を立ち上げ、「近刊情報」に関連する情報を整理し、一般公開している。

情報公開サイト

JPO 近刊情報センター

▶ニュース ▶近刊情報センター案内 ▶発信・受信登録会社 ▶近刊情報の

▶ニュース

- 発信出版社追加
- 受信利用社追加
- 2011年4月15日 Web入力出版社説明会
- アマゾンへの情報提供について
- 発信出版社追加
- 発信出版社追加・受信利用者追加
- 利用規約を更新いたしました
- WEB入力出版社説明会のご案内
- JPO近刊情報センター正式稼働です
- 発信出版社追加
- ▶JPO近刊情報センター案内
 - 組織/役員
 - 所在地/連絡先
 - システム概要
 - 当サイトについて

■ 発信出版社追加

投稿日: 2011年4月22日 作成者: 事務局

近刊情報発信出版社に、富山房・インターナショナル

カテゴリ: ニュース | コメントどうぞ

■ 受信利用社追加

投稿日: 2011年4月19日 作成者: 事務局

近刊情報受信利用社(書店/取次/各種団体)

カテゴリ: ニュース | コメントどうぞ

■ 2011年4月15日 Web入力

投稿日: 2011年4月15日 作成者: 日高

近刊情報入力画面(サンプル)

近刊情報の編集・登録	
<p>TestONIX近刊誌出版社 →出版本部</p> <p>トップ</p> <p>ヘルプ</p> <p>資料保蔵庫</p> <p>重要な連絡事項</p> <p>送信結果</p> <p>書店管理</p> <p>新加盟店</p> <p>ONIXファイル出力</p> <p>アカウント管理</p> <p>ログアウト</p>	<p>登録事項</p> <p>1. 登録されているISBN登録コードが9桁超過して入力されています。続けて登録コードを入力して下さい。 2. チェックディジットに誤りがある場合は自動的に訂正されます。ご注意ください。</p> <p>ISBNコード 978-4-00000</p> <p>データ入力者情報 (登録先担当者情報)</p> <p>登録事項</p> <p>1. 部署、FAX番号以外の入力情報も登録されています。データごとに自動的に入力されます。 2. 通知先担当者入力欄は「氏名部署電話番号」の順に入力して下さい。 3. 電話番号・FAX番号に入力では半角数字/半角記号での入力下さい。</p> <p>連絡先会社名 最大30文字 TestONIX近刊誌出版社</p> <p>連絡先担当者 最大30文字 出版本部 営業部 TEL:099-999-9999 FAX:0345-6789-9999</p> <p>担当者E-mail 最大300文字 A-sanEmail@ca.jp</p> <p>発行元情報</p> <p>登録事項</p> <p>1. 発行元出版社情報は登録されてもデータごとに自動的に入力されます。 2. 変更がある場合にのみチェックボックスにチェックを入れて変更を行ってください。</p> <p>発行元情報</p> <p>登録事項</p> <p>1. 発行元出版社情報は登録されてもデータごとに自動的に入力されます。 2. 変更がある場合にのみチェックボックスにチェックを入れて変更を行ってください。</p>

開発・実証成果内容	成果の普及展開
紙のガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインにて提言した「近刊情報センター」と既刊書誌情報データベース事業者とのシームレスな連携について、現在日本書籍出版協会が運営する「Books.or.jp」との連携を検討中。 ・近刊情報センターと国立国会図書館との連携に向けた準備も進めている。
電子のガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・日本電子書籍出版社協会にて、今回作成した電子の書誌情報における共通フォーマット案をもとに共通フォーマットを検討していくこととなった。 ・日本電子書籍出版社協会に加盟する多くの出版社が、電子書籍のデータベース事業者へ対応デバイス情報までも含めた書誌情報を提供することが決定した。 ・フォーマットの共通化を検討するにあたり、コンテンツを管理するための共通の管理コードとして、今回の別事業にて作成された「電子出版コンテンツ流通管理コード(仮)」を全面的に採用する方向で検討を進める。
近刊情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業終了後の2011年4月より、共同提案者である一般社団法人日本出版インフラセンター(JPO)にて本格運用していくこととなった。 ・今回の「紙の近刊情報」の標準化仕様として採用した、EDItEURが定めるONIX仕様の日本語化を推進しており、7月頃にはJPO内にEDItEURの日本委員会を設置することとなった。 ・加盟団体の普及促進に関しては、継続的に説明会を行なうとともに、近刊情報センターの紹介用DVDを作成し、普及活動を行っている。 また、説明会に加えて年間刊行点数の上位出版社から重点的にセンターへの加盟を推進している。

【参考】近刊電子書籍用書誌情報フォーマット(たたき台)

SQ	大項目	項目	必須項目	内容等
1	コード	電子出版コンテンツ流通管理コード(仮)	○	20桁 ※別プロジェクトでの検討や実証実験の結果を反映する
		出版者管理コード		出版者の独自コード
		電子書籍カテゴリ	○	【カテゴリ区分案】 書籍/コミック/写真集/雑誌/新聞 ※コードは別途検討が必要
4	発行元	出版者	○	
5		出版者ID	○	ISBNの出版者記号
6	ジャンル	ジャンルコード		※ジャンルコード表のコード化が必要
		サブジャンルコード		複数入力可
8	書名	タイトル	○	
		タイトル 読み	○	
		タイトル 短		
		サブタイトル		
11	サブタイトル	サブタイトル 読み		
13	レーベル	レーベル		新潮文庫、岩波ジュニア新書、とんぼの本等シリーズよりも大きくなり。
		レーベル 読み		
		レーベル2		
		レーベル 読み2		
17	掲載誌	掲載誌		
		掲載誌 読み		
		掲載誌2		
		掲載誌 読み2		
21	シリーズ	シリーズ名		
		シリーズ名 読み		
		シリーズ内商品番号		同一シリーズ内での連番を記入
		シリーズ内最終商品		シリーズが完結する場合に記入
		シリーズサムネイル 標準		シリーズで共有のサムネイル画像
		シリーズサムネイル 小		シリーズで共有のサムネイル リスト表示用
		シリーズサムネイル 大		シリーズで共有のサムネイル 拡大表示用
		シリーズサムネイル 正方形		シリーズで共有のサムネイル 正方形用
		シリーズ添付ファイル		販促用のバナーや画像
		シリーズキャッチ		シリーズで共有のキャッチ ※文字数の調整が必要
		シリーズ解説 短		※文字数の調整が必要
		シリーズ解説 長		※文字数の調整が必要
		管理用シリーズ名		書店には提供しない
		34	巻数	巻数
35	セット販売	販売方法区分		通常商品/セット商品/セット販売のみ商品(分売不可)
		セット販売可否		不可/可
		セット親子関係(電子出版コンテンツ流通管理コード(仮))		セット商品(親)の場合、セット内子商品の電子出版コンテンツ流通管理コード(仮)を入力

SQ	大項目	項目	必須項目	内容等
38a	著者	著者名1	○	重要度の順番を入力
39a		著者名1 読み	○	
40a	著者名1 区分		○	【カテゴリ区分案】 著、編、訳、監修、脚本、原作、作画、イラストレーター、その他 ※コードは別途検討が必要
				【カテゴリ区分案】 男性/女性/その他/不明 ※コードは別途検討が必要
41a	著者名1 性別			
42a	著者名1 サイト用表記名			
38b	著者名2			著者が複数の場合記入。ルールは1人目と同様
39b	著者名2 読み			
40b	著者名2 区分			
41b	著者名2 性別			
42b	著者名2 サイト用表記名			
				3人目以降も同様に入力
43		コピーライト表記		(c)+○○○○ ※文字数の調整が必要
44		コピーライト表記 短		(c)+○○○○ ※文字数の調整が必要
45	価格	本体価格	○	税抜き価格
46		税込価格		※税率変更時への対応を別途検討
47		都度販売可否		不可/可
48		月額販売可否		不可/可
49	発売日	発売日	○	yyyy/mm/dd
50		発売情報解禁日		yyyy/mm/dd
51		販売終了日		yyyy/mm/dd
52	対象	対象読者区分		【カテゴリ区分案】 一般、男性、女性、大人、中高生、児童、シニア ※コードは別途検討が必要
		成人指定有無		【カテゴリ区分案】 成人指定/なし ※コードは別途検討が必要
54		撮影時年齢確認		コンテンツ内に実写の人物画像を使用している場合、出演モデルの撮影時の年齢が18歳以上であるかを判別 18歳以上/18歳未満
55	内容	キャッチ		※文字数の調整が必要
56		内容紹介 短		※文字数の調整が必要
57		内容紹介 長		※文字数の調整が必要
58		目次		
59		キーワード		複数入力可
60		メディア化情報		映画化等
61		受賞歴		
62		試読テキスト		文字もの場合、サイトに表示して立ち読み試読が可能 ※文字数の調整が必要

SQ	大項目	項目	必須項目	内容等
63	底本	底本ISBN-10		ISBN-10かISBN-13のいずれかをハイフンなしで記入
64		底本ISBN-13(EAN)		
65		底本発行日		yyyy/mm/dd
66		底本タイトル		
67		底本タイトル 読み		
68		底本ページ数		底本ページ数
69		底本内商品番号		同一底本内の連番を記入
70	画像	サムネイル 標準		サムネイル用画像
71		サムネイル 小		リスト表示用
72		サムネイル 大		拡大表示用
73		サムネイル 正方形		正方形用
74a	1ファイル目	ファイルフォーマット1	○	【カテゴリ区分案】 テキスト/ドットブック/ブックサーフィン /XPDF/EPUB/PDF/AZW/MOBI・・・ ※コードは別途検討が必要
75a		再生環境ID1	○	該当する再生環境(Windows、Mac等) ※コードは別途検討が必要
76a		機能1		文字、画像以外を含む商品の場合は記入(動画、音声等) ※コードは別途検討が必要
77a		ファイル名1	○	
78a		カラーフラグ1		モノクロ/カラー
79a		試読ファイルの有無		有り/なし
80a		試読ファイルフォーマット1		ファイルフォーマットと同一区分
81a		試読ファイル名1		
74b	2ファイル目	ファイルフォーマット2		複数のファイルがある場合に入力。1ファイル目と同ルール
75b		再生環境ID2		
76b		機能2		
77b		ファイル名2		
78b		カラーフラグ2		
79b		試読ファイルの有無2		有り/なし
80b		試読ファイルフォーマット2		
81b		試読ファイル名2		
		1		3ファイル目以降も同様に入力
82	JASRAC	JASRAC管理作品使用の有無	○	有り/なし
83		JASRAC管理コード		
84	添付ファイル	添付ファイル名		販促用のバナーや画像等
85	定期刊行物	発行スケジュール		毎月25日発売等
86		発行間隔		月刊、週刊等
87	集計コード	集計グループ指定ID1		売上げ報告時に付与したい出版者指定のID
		集計グループ名1		売上げ報告時に付与したい出版者指定の名称
		集計グループ指定ID2		売上げ報告時に付与したい出版者指定のID
89		集計グループ名2		売上げ報告時に付与したい出版者指定の名称
90		集計グループ指定ID2		売上げ報告時に付与したい出版者指定のID
91	その他	その他出版者記入欄		特記事項や連絡事項等。書店には非公開

【参考】既刊電子書籍用書誌情報フォーマット(たたき台)

SQ	大項目	項目	必須項目	内容等
1	コード	電子出版コンテンツ流通管理コード(仮)	○	20桁 ※別プロジェクトでの検討や実証実験の結果を反映する
2		電子書籍カテゴリ	○	【カテゴリ区分案】 書籍/コミック/写真集/雑誌/新聞 ※コードは別途検討が必要
3	発行元	出版者	○	
4	ジャンル	ジャンルコード		※ジャンルコード表のコード化が必要
5		サブジャンルコード		複数入力可
6	書名	タイトル	○	
7		タイトル 読み	○	
8	サブタイトル	サブタイトル		
9		サブタイトル 読み		
10	レーベル	レーベル		新潮文庫、岩波ジュニア新書、とんぼの本等シリーズよりも大きなくくり。
11		レーベル 読み		
12		レーベル2		
13		レーベル 読み2		
14	シリーズ	シリーズ名		
15		シリーズ名 読み		
16		シリーズキャッチ		シリーズで共有のキャッチ ※文字数の調整が必要
17		シリーズ解説 短		※文字数の調整が必要
18		シリーズ解説 長		※文字数の調整が必要
19		管理用シリーズ名		書店には提供しない
20	巻数	巻数		同じタイトル内で連番を付ける。 (上=01、下=02 等)

SQ	大項目	項目	必須項目	内容等
21a	著者	著者名1 読み	○	重要度の順に記載
22a		著者名1 区分	○	【カテゴリ区分案】 著、編、訳、監修、脚本、原作、 作画、イラストレーター、その他 ※コードは別途検討が必要
23a		著者名1 サイト用表記名		
21b		著者名2 読み		著者が複数の場合記入。ルールは1人目と同様
22b		著者名2 区分		
23b		著者名2 サイト用表記名		
		↓		3人目以降も同様に入力
24		コピーライト表記		(c)+○○○○ ※文字数の調整が必要
25		税込価格		※税率変更時への対応を別途検討
26	発売日	発売日	○	yyyy/mm/dd
27	内容	キャッチ		※文字数の調整が必要
28		内容紹介 短		※文字数の調整が必要
29		内容紹介 長		※文字数の調整が必要
30a	1ファイル目	ファイルフォーマット1	○	【カテゴリ区分案】 テキスト/ドットブック/ブック サーフィン /XPDF/EPUB/PDF/AZW/MOBI・・・ ※コードは別途検討が必要
31a		再生環境ID1	○	該当する再生環境(Windows、Mac等) ※コードは別途検討が必要
32a		機能1		文字、画像以外を含む商品の場合は記入(動画、音声等) ※コードは別途検討が必要
33a		カラーフラグ1		モノクロ/カラー
30b	2ファイル目	ファイルフォーマット2		複数のファイルがある場合に入力。1ファイル目と同ルール
31b		再生環境ID2		
32b		機能2		
33b		カラーフラグ2		
		↓		3ファイル目以降も同様に入力
34	その他	その他出版者記入欄		特記事項や連絡事項等。書店には非公開

【参考】紙の既刊書誌情報における基本項目

項番	項目	内容・フォーマット他	入力ガイドライン
1	ISBN	ハイフン無し 13桁半角数字	全ての項目のキー、変更不可
2	取引コード	4桁	
3	発行元出版社		
4	部署		対応専門部署がある場合は、 入力者はなくても可とする。
5	入力者名		
6	電話	99-9999-9999	市外局番よりハイフン有り。 IP電話050対応。
7	Cコード	4桁半角数字	
8	書名		「新版」「新型版」等はタイトルに含む
9	書名 読み	全角カタカナ	
10	著者名 1	著者名の件数は制限無し。 重要度の順に入力	日本人と漢字で表される東洋人などは、 姓と名の間は半角スペース。欧米人は 書籍に表示されているとおり。 邱 永漢、ジョナサン・D・モレロ
11	著者名 1 読み	全角カタカナ	キュウエイカン、ジョナサン ディ モレロ
12	著者名 1 区分	著、編、訳、監修等	
13	判型		
14	本体価格	数字のみカンマ不要	
15	発売日	yyyymmdd	
16	通貨単価	YEN固定	
17	言語設定	jpn (日本) eng (英語)、chi (中国) 他コードリスト参照	複数可能
18	再販	1 再販商品 2 その他	
19	販売条件	1 委託 2 買切その他	

【参考】近刊情報センター入力項目

項目	必須項目	内容・フォーマット他	入力ガイドライン			
1 ISBN	○	ハイフン無し 13桁半角数字	全ての項目の基本キー、変更不可	27 判型	○	取次広報誌分類に準じ、コード付けをする。但し新書(B40)、文庫(A6)とし、ハガキははずす。分類外の「その他」「未定」を追加。
2 取引コード	○	4ケタ		28 判型(実寸)		「その他コード」をつけた場合必須。タテ()mmヨコ()mm
3 発行元出版社	○			29 ページ数		数字のみカンマ不要
4 発売元出版社		発行元と違う場合のみ記入	角川GP、地方小、星雲社、銀谷書店等	30 本体価格	○	数字のみカンマ不要
5 部署	○		対応専用部署がある場合は、入力者名はなくても可とする。	31 特価本体価格		
6 入力者名	○			32 特価期限		yyyyymmdd
7 電話	○	99-9999-9999	市外局番よりハイフン有り。IP電話050対応	33 発売予定日	○	yyyyymmdd 20101208 未確定の場合も予定日を入力。上・中・下旬は不可。
8 FAX		99-9999-9999	市外局番よりハイフン有り	34 発売協定日		yyyyymmdd
9 E-mail				35 注文・申込締切		yyyyymmdd 事前注文受付締切日
10 Cコード	○	4ケタ半角数字		36 発売情報解禁日		yyyyymmdd
11 ジャンルコード		取次広報誌ジャンルコードに準ずる	CVS専用のコミックス(廉価版)の場合は、必ずジャンルコードを入力。	37 通貨単位	○	YEN固定
12 書名	○	刊行前は全て仮という認識を共有した上で、仮題表記については出版社の判断	「新版」「新装版」等はタイトルに含む	38 言語設定	○	jpn(日本語、デフォルト) eng(英語) chi(中国語) 他コードリスト参照
13 書名 読み	○	全角カタカナ		39 再販	○	1再販商品(デフォルト) 2その他
14 サブタイトル				40 販売条件	○	1委託(デフォルト) 2買切その他
15 サブタイトル 読み		全角カタカナ		41 対象読者		児童書の場合記入(週速報分類に高校を追加)
16 レーベル			新潮文庫、岩波ジュニア新書、とんぼの本等シリーズよりも大きなくり。	42 成人指定		成人指定の有無 1有り 2無し(デフォルト)
17 レーベル読み		全角カタカナ		43 内容紹介1		取次広報誌用 全角62字以内
18 シリーズ名				44 内容紹介2		読者用及び仕入参考用のより詳しい紹介。そのままサイトアップできる説明とする。1300字以内
19 シリーズ名 読み		全角カタカナ		45 目次		文字数制限無し
20 巻数		任意の文字使用可だが、「<>」「”」など一部記号は置き換えが必要	○巻、全○巻(セット)、I・II、1・2・3、上・下、天・地等。	46 キーワード		キーワードは半角スペースで区切る。100字以内
21 配本回数		第○回配本	全集ものなどの配本回数	47 付録の有無		1有り 2無し(デフォルト)
22 セット商品分売可否		1分売不可(デフォルト) 2分売可		48 付録の内容		200字以内
23 著者名1	○	著者名の件数は制限無し。重要度の順に入力	日本人と漢字で表される東洋人などは、姓と名の間は半角スペース。欧米人は書籍に表示されているとおり。邱 永漢、ジョンサン・D・モレロ	49 画像		ISBN.jpg ISBN.in01.jpg ISBN.in02.jpg 3点まで可
24 著者名1 読み	○	全角カタカナ 姓と名の間は半角スペース	キュウ エイカン、ジョンサン ディ モレロ	50 その他出版社記入欄		内容紹介に入れられない、書店の仕入れに役立つ情報。読者には原則非公開情報。文字数制限無し
25 著者名1 区分	○	著、編、訳、監修等				広告・パブ情報、初版予定数、関連書情報、「再版」「販売条件」項目の「その他」詳細情報 等
26 著者略歴(紹介) 1		500字以内	住所、電話、メールアドレス等変更の可能性のあるものは不可。大学生協連への情報提供の場合は著者の大学名を記入。			
- 著者名2						
- 著者名2 読み		全角カタカナ				
- 著者名2 区分		著、編、訳、監修等				
- 著者略歴(紹介) 2						
- ↓						